

皆で考えよう, 産婦人科医療  
どうするわが国のお産

女性医師の立場から

公立大学法人横浜市立大学附属  
市民総合医療センター  
母子医療センター助手 奥田 美加

2006.12.3 公開市民フォーラム

皆で考えよう, 産婦人科医療  
どうするわが国のお産

若手女性医師の立場から

公立大学法人横浜市立大学附属  
市民総合医療センター  
母子医療センター助手 奥田 美加

2006.12.3 公開市民フォーラム

# 産科医不足

2006.12.3 公開市民フォーラム

## 私のプロフィール

- 平成4年，横浜市立大学医学部卒業
- ローテート研修で，2年間，複数を研修したのち，横浜市大産婦人科学教室に入局
- 産婦人科医になって，12年と6カ月が経過
- ふと気づくと，「周産期」を専門にしていた
- 産婦人科6年目に，男児を出産，現在7歳
- 子育てと家事は，同居の71歳実母がほとんどをこなしているのが実情
- 2003年6月より，現職



2006.12.3 公開市民フォーラム

## 横浜市立大学附属市民総合医療センター 母子医療センター



産科34床(2床増床予定)

NICU6床(3床増床予定)

NHCU12床

年間分娩数:約1000件

周産期の基幹病院として  
重症患者を受け入れる一方、  
「赤ちゃんにやさしい病院」

認定施設として

母乳育児を推進

2006.12.3 公開市民フォーラム

## 横浜市立大学附属市民総合医療センター 母子医療センター



500gの赤ちゃんや  
重症の赤ちゃんが  
つぎつぎ入院する  
NICUは常に満床

高度救命救急センターは  
母体救命の心強い味方  
産後の大出血や早剥は  
なにがなんでも受け容れ



2006.12.3 公開市民フォーラム

## ある一日

- ☺ 深夜もみっちり働いた当直明けの朝，外来へ
- ☺ 「今日は，午後から予定の帝王切開が2件あるなあ」と思いつつ，妊婦健診をひたすら続ける
- ☺ 10時，院内携帯電話が鳴る
  - ☺ 「妊娠高血圧症候群重症の搬送依頼がありました。むこうの都合で13時頃に来ます」
- ☺ 午前の外来を終え，昼食をかきこんで(食べられただけでもマシ)，搬送患者の到着を待つ。

2006.12.3 公開市民フォーラム

## ある一日

- ☺ 13時，患者到着．状態より，ただちに帝王切開を決定
- ☺ 手術室に電話する。「すみません，予定の2件の前に1件やりたいんですけど」：14時入室
- ☺ 予定の2件は夕方から開始し，児が出生したのは17時，19時(予定手術なのに・・・！)
- ☺ また私の電話が鳴る
  - ☺ 「分娩進行中の〇〇さん，心音が落ちるので帝切にします」
- ☺ 3件目と平行して手術を開始，20時，児が出生

2006.12.3 公開市民フォーラム

## ある一日

- ☒ この間、病棟では別の分娩があった
- ☒ スタッフは全員が業務にあたり、事態がほぼ収束したのは、21時もまわった頃だった
- ☒ ここで気づく。「あ、明日も当直だ、私」
- ☒ 今からすぐ帰っても、小学一年生の息子はすでに眠っている
- ☒ つまり、三日連続、息子の起きている時間に家には帰れない事が確定
- ☒ それ以外にも、診療の下調べなどに多くの時間を費やす必要がある

2006.12.3 公開市民フォーラム

## スタッフの経験年数配分

部長	昭和51年卒	29年目	●
...16年の開き...			
教員	平成4年卒	13年目	●
教員	平成8年卒	9年目	●
教員	平成8年卒	9年目	●
教員(産休中)	平成10年卒	7年目	●
常勤特別職	平成12年卒	5年目	●
常勤特別職	平成13年卒	4年目	●
常勤特別職	平成15年卒	2年目	●
常勤特別職	平成15年卒	2年目	●
常勤特別職	平成15年卒	2年目	●
常勤特別職	平成16年卒	新入局	●

あらゆる相談を受け、  
様々な調整役をになう  
「現場監督」  
実働部隊

2006.12.3 公開市民フォーラム

## ● 「大学病院」・・・どういうイメージ？

全体からみればまだまだ  
若造の我々が、  
他院からの難しい症例も受け、  
バタバタと走り回り  
業務をこなしているのが実態

● ● ● ● ● ● ● ● }  
産婦人科に限ったことではない

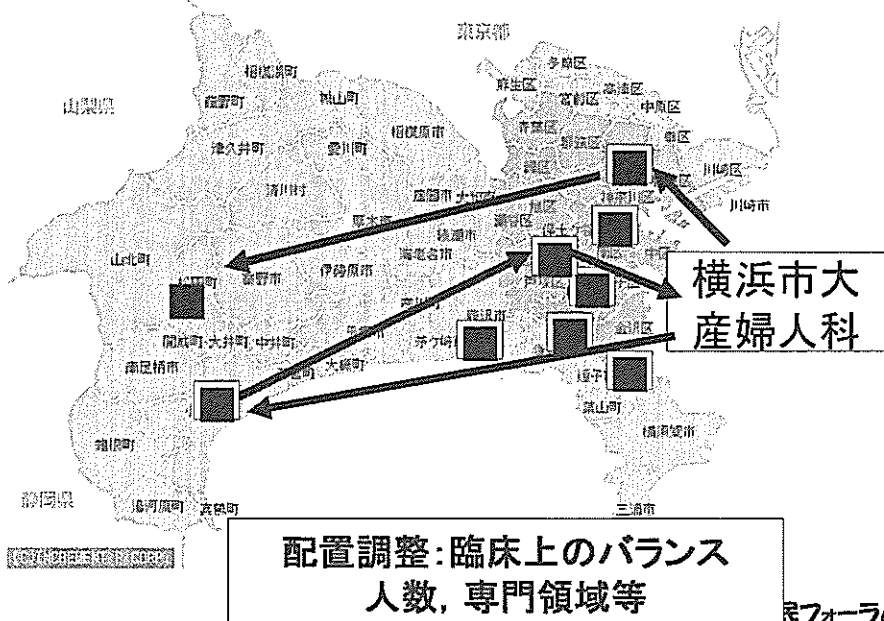
2006.12.3 公開市民フォーラム

## 分娩を取り扱う総合病院の苛酷さ

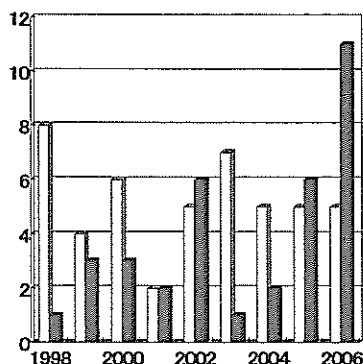
- 一病院に産婦人科医が5人もいる場合
- 分娩があるので、24時間必ず産婦人科医が病院に  
いる必要がある
- 30日を均等に割っても6回の当直
- 夜間の緊急手術のためのオンコール医師が必要。  
均等に割って6回
- つまり、自動的に月12回は拘束される計算
- しかも、手術や分娩を取り扱う施設がどんどん減少  
し、信じられないほど手術や分娩が殺到
- 当直明けも通常業務。残りの4人だけでは、外来や  
手術をこなしきれないので

2006.12.3 公開市民フォーラム

## 総合病院産婦人科への医師配置



## 横浜市大産婦人科医師数の増減



元々、関連病院の定員を埋め切れていなかった

少人数で綱渡りの診療をすべきではない、という考えが

ようやく受け入れられ、各病院の産婦人科定員数は増加傾向

しかし、送り込むべき人員は、大変な勢いで減り続けている。この春には、マイナス6~8人の見込み

2006.12.3 公開市民フォーラム

# なぜ、産婦人科を 選ばないのか

2006.12.3 公開市民フォーラム

## 自分の進む診療科を考える時・・・

- ①「産婦人科って面白いけど、当直が多いし、忙しい  
んでしょ？訴訟も多いって言うじゃん。それで給料が  
大して変わらないんじゃ、行く気しないよね」
- ②それでも診療内容に興味を持って、「忙しくてもいい、  
頑張ってみよう」と産婦人科を選択しようとする  
と、思わぬところから待たがかかる
- ③親兄弟から大反対「産婦人科？あの逮捕とか訴訟とかが  
多いって科でしょ？ダメダメ、別の科にきなさい！！」
- ④彼氏からネチネチと「子供が生まれたらどうするんだよ。  
かわいそうじゃん。オレ？オレは家事やれないし、休めな  
いよ。男で育休なんて取れるわけない」

2006.12.3 公開市民フォーラム



# なぜ、やめてしまうのか

2006.12.3 公開市民フォーラム

## 産休を取ったあとの選択

- ① ぎりぎりの生活のなか、「自分が休むと他の人に迷惑が」と遠慮しながら妊娠して、出産
- ② 産休明けから働いている先輩を見ていた時は、「私もやれる」「皆のためにも頑張ろう」と思った。自分も産休明けプラスαの休みで戻ろうと思っていた
- ③ でも産休中、ゆったりとした人間らしい生活、目の前には、自分だけを頼る愛らしい我が子がいる
- ④ 自分が働かなくても、収入のある夫がいる



戻りたくなくなるのも無理はない

2006.12.3 公開市民フォーラム

## この春、去っていく、休む、女性医師

- 第3年目「結婚相手について行くので、他の土地へ」
- 第4年目「疲れたので休局したい」
- 第5年目「親の具合が悪いので休局したい」
- 第7年目「親の具合が悪いので休局したい」
- 第7年目「育児休暇を取りたい」
- 第8年目「臨床に疲れたので大学院に行く」
- 第9年目「結婚し都内に家を買った。分娩のない病院に転職する」
- 第12年目「育児休暇を取りたい」
- 第13年目「開業する」
- 第16年目「開業する」

2006.12.3 公開市民フォーラム

## やめるのはお母さんばかりではない

- ちょっとでも難しい症例は、全て大学病院や総合病院に集まる。結果が悪ければ医師個人を責められ・・・
- 夜間、かかりつけの診療所に連絡のつかない人が、救急車を呼ぶ、そんな患者も飛び込んで来て・・・
- 「しりぬぐい」をしているような気分させられ・・・
- 先述のような業務をこなして疲れ切って・・・
- ふと噂を聞く「健診センターに行った〇〇さんは、平日9時～17時で、年収はほとんど変わらないらしい」「開業した△△さん、お産を扱ってないけど、月収100万は下らないって、家をまた建てたそうだよ」

2006.12.3 公開市民フォーラム

## やめるのはお母さんばかりではない

① ちょっとでも難しい症例は、全て大学病院や総合病院に集まる。結果が悪ければ医師個人を責められ……

② 夜間、救急車  
③ 「しりぬ  
張りつめていた  
「何か」が  
い人が、  
……  
……

④ 先述の **プツン、と切れる瞬間**

⑤ ふと噂と噂の同い年同い年の産科先生産科先生は、平日9時～17時で、年収はほとんど変わらないらしい  
「開業した△△さん、お産を扱ってないけど、月収100万は下らないって。家をまた建てたそうだよ」

2006.12.3 公開市民フォーラム

## お父さんは？

① あるベテラン男性医師の言葉

② 「自分が病棟主任だった頃は、24時間、365日、オンコールだった」

③ 「女房からは、『なんであんたばかり、毎日毎日、呼ばれるの?』と言われた」

④ 「空いた時間があれば、毎日でも飲み歩いていた」

⑤ 「息子の授業参観? 一度も行ったことないなあ」

⑥ こうした男性医師が家庭を顧みず身を削って、産科を支えていた。それを支える主婦の妻が

2006.12.3 公開市民フォーラム

## 女性医師に、かつての男性医師と同じ生活は不可能

- ☒ 女性医師の家に、「専業主夫」は普通いない。
- ☒ フル勤務の女医さんが一言「ダーリンの世話もしなきゃならないからねえ」
- ☒ 「主婦代わり」の実母などがいない限り、同じ量の業務をこなすことは不可能
- ☒ そして男性医師にも、かつてのような仕事ぶりはしてほしくない

2006.12.3 公開市民フォーラム

## いまのお父さんは？

- ☒ 子供をお風呂に入れる当番だから帰ります
- ☒ 幼稚園の願書を受け取りに行くから遅刻します
- ☒ 七五三なので、この週末は絶対当直できません
- ☒ 息子の中学受験に付き添って行くので、3日間休みをください
- ☒ 飲みに行く？ 妻に怒られるから・・・今日はパス

今の時代、こうあるべき  
家庭の「お父さん役」「お母さん役」を守れる  
職場環境をつくるべき

2006.12.3 公開市民フォーラム

## そのためにはどうしたらいいか

- ① 学会出張や子供の授業参観に行っても業務に差し支えが出ないためには、「お留守番」役の日勤限定医師を含めてでもいいから、一施設あたりの産婦人科医数が多くあるべき
- ② 分娩にはリスクが伴う。緊急時に速やかに対応ができる施設に分娩を集め、その点からも一施設あたりの医師数を増やす必要がある
- ③ そうした病院を増やしたいのはやまやまだが、配置するコマがどんどん減ってしまっている

2006.12.3 公開市民フォーラム


## 現場の女性医師としての願い

女性医師が「お母さん」でありたいのと同じく、男性医師も「お父さん」でありたい。

つまり、「女性医師問題」は、女性医師だけ、産婦人科だけの問題ではなく、医師全員の問題である。

女性の妊娠・出産をまもる私たち自身が「親」として仕事を続けられる労働環境を整備することは、安全な周産期医療を提供することにもつながる。

2006.12.3 公開市民フォーラム



ご清聴ありがとうございました

ピカソ「母子像」  
BFH認定証

2006.12.3 公開市民フォーラム

# 公開市民フォーラム どうする我が国のお産 「地方の実状と提言」

旭川医科大学病院

病院長 石川睦男

2006年12月3日 東京大学 安田講堂

## 二次医療圏における 医師と医療指標との関連性

小児科医師数・産婦人科医師数と  
新生児・周産期・乳児指標との関係

- 旭川医科大学
- 医学部附属病院長 石川睦男
- 周産母子センター 田熊直之、日高康弘
- 健康科学講座 吉田貴彦、今井博久
- 伊藤俊弘、廣岡憲造

(今井博久、石川睦男)

日本産科婦人科学会誌 第42巻4号 28-32(2005)

## はじめに

- これまで医療資源の配分や医師の適正配置などの問題が議論されてきた。
- 北海道では面積が広く、そうした問題はより深刻である。
- 特に、地域の医師不足が該当地域の人々の健康医療水準を低下させていると懸念されている。
- そこで、健康医療水準と医師数の関連性を検討した。

## 目 的

第二次医療圏を対象単位に設定して

人口10万人当たり

小児科医師数ならびに産科婦人科医師数

と

新生児・周産期・乳児の各指標

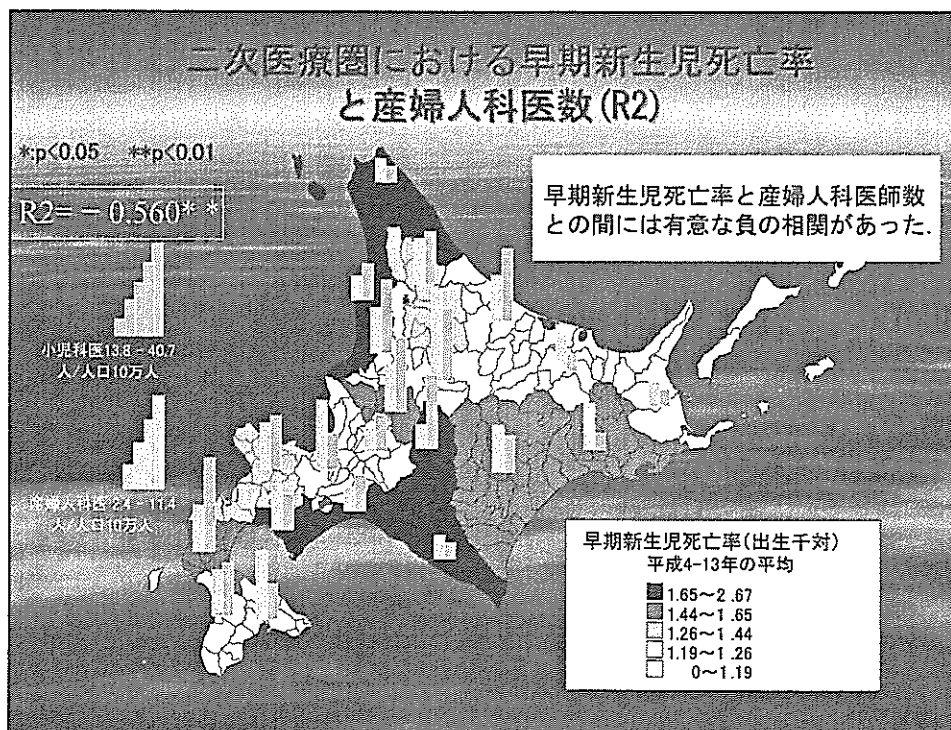
と

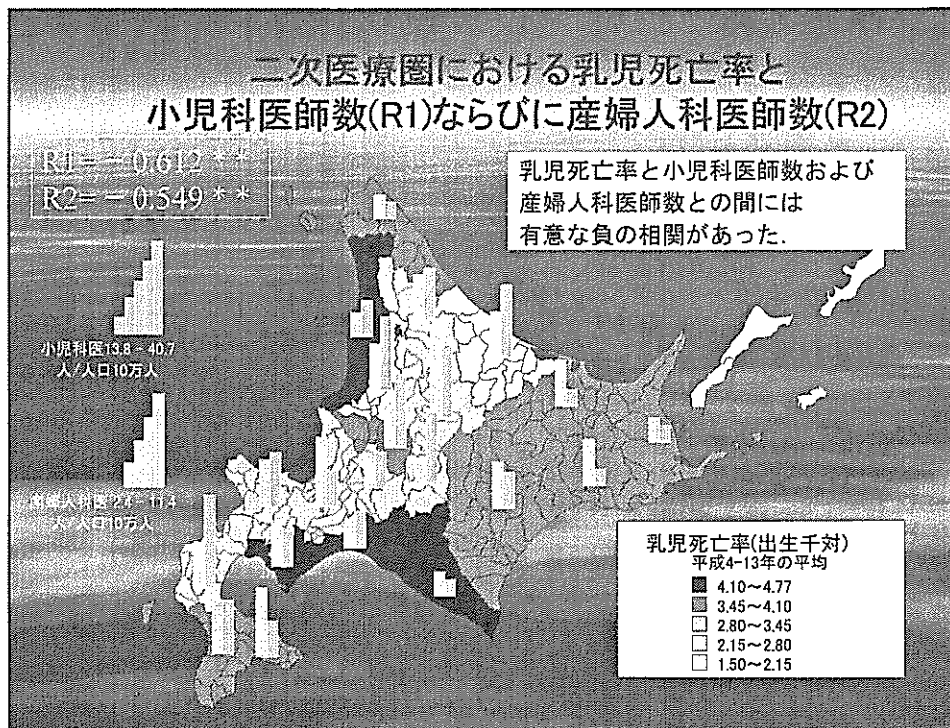
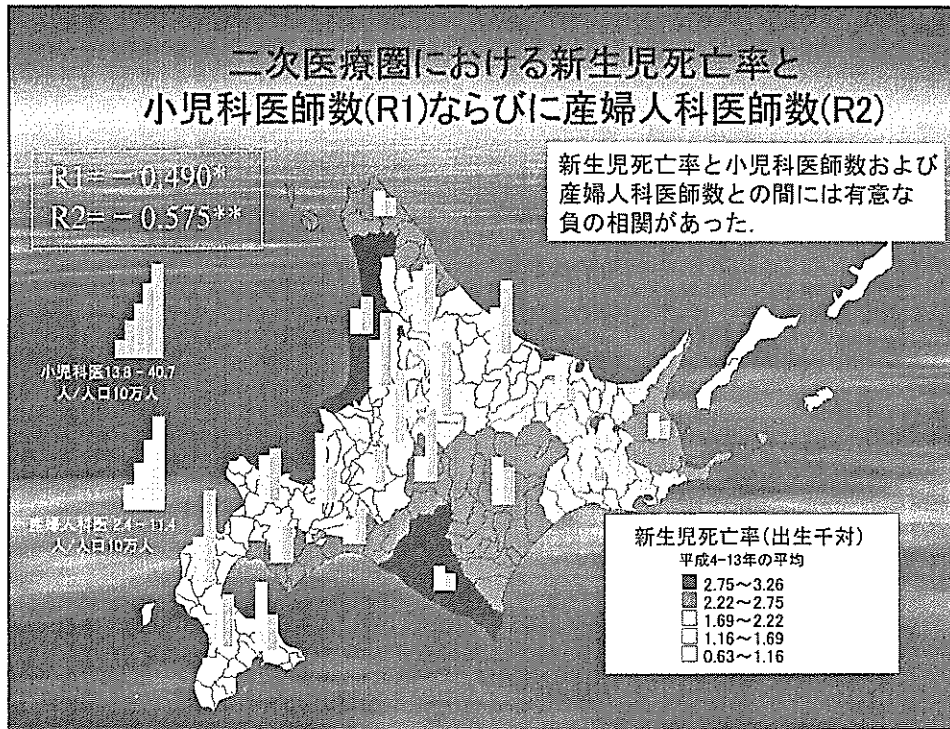
の関連性を検討した。



## 方 法

- 医師数は平成10年から平成14年の厚生労働省の医師・歯科医師・薬剤師調査を使用した。
- 新生児・周産期・乳児の各指標は平成4年から平成14年の北海道衛生統計年報を使用した。
- 新生児・周産期・乳児の各指標は第二次医療圏毎の死産率、周産期死亡率、乳児死亡率を分析に用いた。
- 各指標の値は単年度の値による変動の攪乱を防ぐために各指標の10年間の平均を求めその値を用いた。
- Spearmanの相関係数を計算した。





## 考 察

- 早期新生児および新生児死亡率が高い医療圏は産婦人科医師数が少なかった。
- 新生児死亡率および乳児死亡率が高い医療圏は小児科医師数・産婦人科医師数が少なかった。

- 小児科医師と産婦人科医師の不足が新生児・乳児の医療水準を低下させていることが示唆された。

## 今後に向けて

- 医師の偏在により医療水準の低下が生じている可能性があり、早急に是正されなければならない。
- 母子保健に向けた移動手段（搬送体制etc.）や事前対策（早期入院etc.）を整備する必要がある。
- 周産期医療に特化した医療圏の設置を検討する必要があるかもしれない。

「北海道のお産をまもるために」

日 時：平成18年10月22日（日）13：50～17：00

司 会：旭川医科大学病院 病院長 石川 睦男（分担研究者）

講演者：

東北大学教授・・・・・・・・・・岡村 州博（主任研究者）  
 厚生労働省母子保健課長・・・・・・・・千村 浩  
 北海道医師会副会長（北海道医療対策協議会委員）・・加藤 紘之  
 北海道大学教授・・・・・・・・・・櫻木 範明  
 日本助産師会北海道支部長・・・・・・・・東 紀子

追加発言：

北海道大学産婦人科医局長・・・・・・・・鍛名 康彦  
 札幌医科大学産婦人科医局長・・・・・・・・鈴木 幸浩  
 旭川医科大学産婦人科医局長・・・・・・・・堀川 道晴

北海道における周産期医療に携わる産婦人科医師数

助産所		5 施設	
病院	66 施設		
	常勤医数	施設	割合(%)
	1名	13	19.7
	2名	7	10.6
	3名	14	21.2
	5～9名	13	19.7
	>10	3	4.5
計257名			
有床診療所		41 施設	
	1名	28	68.3
	2名	10	24.4
	>3名	3	7.3
計 59名			

総数 316名